



☆感謝☆

〒244-0002 横浜市戸塚区矢部町125
電話 045-881-0348 FAX 045-392-6043
E-mail: mail@zenryouji.jp http://www.zenryouji.jp
発行責任 善了寺 還る家ともに 2月担当: 吉田

新しい年になりました。昨年一年を振り返り、檀家の皆様、ボランティアの皆様をはじめ多くの方々に多大なお力添えをいただいたことにあらためて感謝申し上げます。

折り紙、塗り絵、ちぎり絵、歌の会、調理、将棋、カラオケなどで日々をにぎやかに彩るひとときを提供して下さった方々、利用者さんの心配ごとや楽しかった話をじっくりと親身になって聴いてくださり、愚痴からはじまったのにさいごは笑い話になってすっきりした顔で帰っていくばあちゃんをにこにこ見送って下さった方々。調理ボランティアさんは、彩り豊かな栄養あるお昼ご飯を、温かいうちに、と毎日心を砕いて作ってくださっています。美容室の奥さんは定期的に女性週刊誌を持ってきてくださいます。お向かいにある保育所のこっこのや、小さい子を持つお母さんが働く近所の「こまちカフェ」の子供達はりんご色のほっぺであそびにくると、ばあちゃんはこどもの元気をもらって笑顔になります。

去年、戸塚駅西口にあるボランティアセンター「フレンズ戸塚」にて、近隣の介護保険事業所が集まりボランティアについての研修がありました。グループホーム、特養、デイサービスと形態はさまざまでしたが、「還る家とともに」ほど大人数で多様な世代のボランティアさんが通ってくださっている事業所は他にありませんでした。どこも、いかに多様なボランティアさんが定着し、継続して通ってくださるか、ということに頭を悩ませているようでした。

「還る家とともに」では、多様な方々が集うことで外から新しい風が入り、一緒に四季を過ごし、やがて訪れるお別れに一緒に涙し、また新しい出会いに喜び、思い出が無限に増えていきます。陰ながら支えてくださっている多くの皆様のおかげをもって、今年3月で開設から満9年となり、4月からは10年目に入ります。この10年の最大の財産は、年月の中で培われ、広まり、深まってきた人と人との関わりにあると感じています。“生と、老いと、病と、死と、喜びも悲しみもともに歩みたい。誰もがいつでも、心の深呼吸ができる場所”とこのニュースのタイトルにあります。今までも、これからも、ここに集うお一人お一人にとって、心の深呼吸ができる場所でありたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



義母(はは)とのお正月 池田紀代美

大正5年1月3日生まれの義母(ハハ)は今年98歳になりました。次男と同居しており、私達(主人と私)は、車で10分位の所に住んでいます。何かがあればすぐ、かけつけられる距離です。軽い認知があるものの、いたって元気。現在は週3回を、すぐ近くにあるデイサービスへ通う日々である。90歳を過ぎた頃、皆が通所のサービスを勧めるのだが、頑として首をたてにふらず、「あそこは年寄りの行く所、わたしゃ行かん!」と完全拒否。取り付く島もない。皆はあきらめ、その後数年が経過した。私達は同じ所へ通う義母の知り合いに頼んで、誘ってもらい、やっと第一歩を踏み出した。その時95歳であった。最初の頃、スタッフに、又仲良くなった利用者さんへお世話になっているからと、ある物をティッシュにくるんでサッと渡す。又、物を差し上げることが続いた。そのつど施設より、持たせないようにして下さいという電話が入り、義母には注意するのだが、聞く耳なし。逆に、「お世話になっているから、お礼ばしよるとよ!何が悪い!」と逆ぎれの時もあり、素直に「わかった!」「もうしない!」という時もあるが、全く効き目がない。数日後には、また同じことのくりかえしである。(次頁へつづく)

それが結構長く続いた。どうなることやらと思っていたが最近になって、やっとそれも治まった。やれやれである。義母は好奇心旺盛でおしゃべりが大好きで誰とでもすぐ仲良くなってしまう。それは病院の待合室で、又電車に乗った時（今は乗ることはなくなったが）隣に座った人にすぐ声をかける。

また、おしゃれである。今でも髪を自分で染める（ただしまだらになっている）。そして、デイへお出かけの時には、長いネックレスをひょいと首にかけ、胸には花のブローチをつけて、出かけるのである。

そんな義母が今年の11月に10日間ほど入院を余儀なくされた。なにせ、97歳の義母が退院後どうなるのか？家族は心配した。が、我々の心配をよそに、入院前とほとんど変わらぬ状態での退院となった。恐るべしである。

私も実家の母との生活より義母との生活が長くなった。ケンカらしいケンカもせず今まで過ごせてこれたのは、義母の深い愛情と、わがままな私をそっくりそのまま受け入れてくれた義母の懐の深さであると感謝せずにはいられません。2男3女の5人の子供達を育て、長女が75歳となり皆が健在である。毎年恒例となった、それぞれに嫁いだ娘や息子たちが家族ぐるみで集まり、今年のお正月もにぎやかであった。今後、こんなお正月が何年続くだろう。

「こうなったら、100歳まで元気でいてほしいよね！」と次男が言った。皆ウンウンと頷いている。その時は盛大にお祝いをしよう！

☆坊守のつばやき☆

小玉さんが往生されました。デイをご利用になられるきっかけも、末期のがんの病気でしたから、私達も覚悟はしていました。ご利用されている間も、体が痛く苦しいご様子もたくさんお見受けしましたが、それでも、その間で、ヒマワリの種を植えたり、笑顔で、私達と話してくれたり、坊主めぐりゲームでは、盛り上げ役を買って出てくれて、おばあさんたちを楽しませてくれたりして、穏やかで明るいジェントルマンでした。病気が進んで、デイに通えなくなり、ご自宅で療養されておられる時、お見舞いに伺いましたら、ご自分のお葬式の見積もりも出して、色々と、ご自身の最期の準備をされているとお聞きしました。また、お薬を見せてもらいましたが、ミニミニ薬局のよう。奥様は、それを時間と量と痛みの症状に応じて溶かしたり、煎じたりして管理されているとか。家で、療養することの大変さを感じました。その後、ターミナルに入られる時には、その時にお持ちした、ご本尊様を病室に安置され、手を合わせていらっしゃったとか。

ご葬儀には、ご縁がありまして、私が導師を務めさせていただくことになりました。その際、ご家族、ご親戚やご近所の皆様と、一日ご一緒させて頂き、皆さんが、小玉さんのことを偲ぶ心が一つになっているのを感じましたし、小玉さんが皆さんに感謝しておられるお姿が、目に浮かぶような感じがしました。後日奥様から、お電話いただいた際に、小玉さんの闘病に最期まで関わってくれた方々が集まってきて、とても心に残るお葬儀だったと、私にも感謝の言葉を頂きました。デイサービスは、要介護老人に対して、自立のために機能訓練や支援を行うという目的があります。それと同時に、末期がんや認知症によりだんだん自分の事が出来なくなって不安と真向かいになっていく厳しい現実には直面する方達に『お寺のデイサービス』にきていただき、最期までどのように過ごされるお手伝い出来るのか、日々、研鑽していく必要性を小玉さんから、教えて頂きました。合掌

ボランティアさん

善了寺に関わってくださっている沢山の方々にデイサービスは日々支えられています。いつもあたたかい気持ちと笑顔を持ちよって寄り添って下さることにあらためて感謝申し上げます。

敬称略

中嶋芳江	秦野かねよ	安藤信子
竹中秀子	山下トキエ	西岡美都里
寺島美代	朝倉好子	別府与志子
濱崎芳子	市野和歌子	弓削福子
矢口和子	秦野雅子	飯島慶子
米村正男	小寺久枝	江田峯子
中島雄子	村井ヒテ子	江尻伸子
鳥巢スエ子	牛島寛子	橋本淑子
長澤チヨ子	福寿貴美恵	犬塚照夫
松村節子	秦野宣子	大金スエ子
梅本忠男	小林ミエ	林ヨシ子
松田良子	森谷ミヨシ	山田ヒロ子
増村隆	穴山よしお	乾隆子
磯地正人	内田佐知子	砂川元枝
長岡綾子		